

## 第2回文京区アカデミー推進協議会(生涯学習分科会) 議事要旨

日 時	平成27年6月23日(火) 18:30~20:30
会 場	文京シビックセンター3階 障害者会館C会議室
委 員	会 長 田中 雅文 (日本女子大学教授) 委 員 柳澤 愈 (文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア 講座企画委員会 委員長) 委 員 塩見 美奈子 (文京区生涯学習サークル連絡会 会長) 委 員 田中 ひとみ (文京区女性団体連絡会 広報部長) 委 員 三谷 規子 (文京区青少年委員会) 委 員 小林 博 (区民公募委員) 委 員 黒木 美芳 (区民公募委員) 委 員 黒田 千恵子 (区民公募委員) 委 員 松井 良泰 (公益財団法人文京アカデミー 事務局長)
欠 席	委 員 平井 宥慶 (文京区民生委員・児童委員協議会 会長) 委 員 増田 純 (区民公募委員)
事務局	山崎 克己 (アカデミー推進部アカデミー推進課長) 福田 昭正 (アカデミー推進部アカデミー推進課アカデミー推進係長)
支援事業者	株式会社創建 氏原・本多
資 料	第1回文京区アカデミー推進協議会(生涯学習分科会) 議事要旨 生涯学習における課題

### 議 事

#### 1. 開 会

#### 2. 委員等紹介・進行の確認

会長からの挨拶ののち、事務局より配布資料の確認と会議の進め方について説明が行われた。

#### 3. 議 題

2つのグループに分かれて新しい計画の生涯学習分野において重視したいポイントなどについて話し合う座談会を行なった後、全員で意見交換を行った。

#### 【グループ①】

田中会長 学んだこと活かす、コミュニティ形成など生涯学習を通じた課題について考えはあるか。

黒田委員 サークル活動には、講座からサークルになるものと各地域のコミュニティセンターにおけるサークルと2つあると思う。前者は区全体の人によって構成されており、後者は地域にいる人が集まって構成されている。

- 各地域のコミュニティセンターにおけるサークルは、隣の地区であっても情報は共有・公開されるものがない。他の自治体ではサークルの情報が一覧にされ、募集要項が掲載されているパンフレットがある。文京区でもそのようなパンフレットがあればよいと思う。
- 柳澤委員 文京区ではサークルの募集要項が載るような広報誌はない。区報には一部載っているが、区内のサークルにはニーズはあるのではないかと。
- 松井委員 区報は紙面の都合もあり、全てのサークルの情報が載っているわけではない。
- 柳澤委員 全てのサークル情報を載せるのは区報の役割ではない。別の機関誌が必要なのではないか。
- 黒田委員 文京アカデミー「スクエア」はイベントの告知も重要だと思うが、サークルの情報を載せてもよいのではないかと。
- 柳澤委員 所管の違いがある。
- 松井委員 新たにサークル情報を扱う広報誌があればよいという提案ということではないかと。
- 田中会長 誰が、どの程度のコストで作成するかという課題はあると思うが、リストの作成はできるのではないかと。作成したリストを地区のセンターに置いておけるとよいのではないかと。
- 黒田委員 このほか、サークルを特集し紹介をしている広報誌も他の自治体にはある。
- 松井委員 地区のコミュニティ形成を行う生涯学習活動と区のアカデミー推進に向けた生涯学習講座が行われている。事業者として採算の取れる講座を実施するという一方で、社会的意義のある講座を行うという考えもある。様々な生涯学習の取組みがある中で全体としてどう整理していくか、全体の中でどう見える化をしていくかを考えていかなければならないと感じている。
- 黒木委員 各地区で行われている生涯学習の取組みを全区で広げてつなげることができるとよいのではないかと。
- 田中会長 話を整理する。サークル活動は地区ごとに行われている一方で、全区レベルで生涯学習講座から続くサークル活動もある。全区レベルで集まるサークルの情報がもっとオープンになれば、そこに参加していた人が地域に戻り、地区レベルのサークルのつながりが連動し、コミュニティづくりに大きな役割を果たせるかもしれない。その意味でサークルの見える化は非常に重要だといえる。
- 黒木委員 地域のコミュニティという考えを地域同士のつながり、世代ごとのつながりとさらに立体的に広げていくことを考えていかなければならない。
- 田中会長 地域をベースに、もう一つ、全区をつなぐという視点をもってつながりを広げていきたい。
- 柳澤委員 文京区の面積をみると、全区を一つの地域と捉えてもよいかもしれない。
- 田中会長 全区でつなぐにはどのような視点があるか。
- 黒木委員 あるテーマを持ったコミュニティが全区をつなぐコミュニティとなるのではないかと。
- 田中会長 テーマ型コミュニティという考え方で、地域を超えてサークルをつないでい

- けるとよい。
- 松井委員 広くコミュニティをつないでいくということを考えていきたい。
- 黒木委員 一人の人が複数のサークルに所属していることも多い。大事なのはサークル同士が交流する場をより充実させることだと考えている。交流を広げる場があれば、区民自身が学び、コミュニティを広げていく。講座を充実することも重要だが、人が交流する場をつくることがまず大事であると感じている。
- 田中会長 講座の人数を増やすことではなく、人が交流する場をつくることが重要であり、それが生涯学習を活発にしていくことになる。
- 黒木委員 「供給側としてアカデミア講座、需要側として区民がある」ということではなく、「区民自身が学んでつながり、それが全区レベルで広がるための学びの場づくり」を充実することが重要であるということか。
- 柳澤委員 生涯学習を推進するには、教わるのではなく自ら学ぶ意欲を高めていくことが重要ではないか。
- 田中会長 地域でのつながりが一次元、趣味でのコミュニティは二次元、個人で複数のサークル活動を行うと三次元になる。生涯学習は終わりがあるものではないので、アウトプットと同時に学ぶことも重要なのではないか。
- 柳澤委員 インプットとアウトプットを同時に行う、学び合いのコミュニティづくりが大事なかもしれない。
- 黒木委員 複数のサークルの所属し、たくさんのインプットとアウトプットを行うことができる環境をつくっていけるとよい。
- 田中会長 文京区には複数のサークルの所属し、コミュニティを広げる人が多い。コミュニティが広がり外に出ていく人も多いかもかもしれないが、区から都、都から世界へとコミュニティを広げていくことも重要なのではないか。
- 松井委員 文京区が他区と協働していることはあるか。
- 黒木委員 具体的にはない。歩調を合わせる難しさがあるかもしれない。
- 黒田委員 文京区のアカデミア講座は活発で、他の区で参加希望者もいるはずである。
- 田中会長 コミュニティを広げて他の区とも交流していくことは魅力的だと思うが、一方で、区民ですら抽選に漏れて講座に参加できていないという実情がある。その点でまだ他の区の方を受け入れていくことは難しいのではないか。
- 松井委員 アカデミア講座のキャパシティは一杯になりつつある。サークル活動をより充実させて、学習機会を提供し合うようなことができるとういかもしれない。
- 黒田委員 サークルや大学は広げていくという発想はよいと思う。行政の取組みは予算等に限りがある。区としてできない部分は、区民のサークル活動を支援することで、次にステップとなるかもしれない。
- 柳澤委員 これからは区はサークルを育てていくという視点で広報を支援していけるとよい。
- 田中会長 生涯学習サークル連絡会もより機能していけるような支援もあるとよい。
- 黒田委員 社会教育関係団体の一部が生涯学習サークル連絡会に入っているのであれば、うまく活動をつなぎ、そういった仕組みを活性化していけるとよい。
- 柳澤委員 開放的なネットワークを活用していくということが一つの柱となるかもしれない

- い。
- 柳澤委員 文京区のことを学ぶための講座があり、文京区に詳しい区民も大勢いる。しかし、区内に留まらず広域的に学べる環境も整えられるとよいと感じている。
- 田中会長 他に別のテーマでも、ご意見はあるか。
- 柳澤委員 団塊の世代はどのように生涯学習の取組みに参加してもらうべきか。これからリタイアして生涯学習に取り組む人が増えてくるのではないか。
- 黒木委員 元気のある世代なので、自主性を尊重できればよいのではないか。
- 松井委員 団塊の世代に対して求める声は、生涯学習の分野に限らず、防災など多岐に渡っていると感じている。団塊の世代に興味を持ってもらって、生涯学習を行うきっかけづくりをしていく必要はあるのではないか。
- 黒木委員 活動のテーマを提示し、情報をオープンにしておけるとよい。講座に人を集めるという視点での取組みでは根本的な課題解決につながらないと考えている。

## 【グループ②】

- 田中委員 託児サービスがあるが、3歳以上という年齢制限がどうにかならないか。必要とする保護者もいるのではないか。手話通訳がある講座がない。
- 山崎委員 手話通訳はあると思う。
- 田中委員 周知しなければ分からない。情報発信がないとあきらめてしまう方もいる。
- 山崎委員 障害者の方も手配することもできるサービスもありはする。
- 田中委員 主催者として準備することで敷居が下がると思う。
- 塩見委員 以前は講座を終わったあとにサークルをつくらないかという声掛けを区職員が行っていた。その結果、多くの団体ができた。あらためて声掛けをしてはどうか。区ができないのであれば、サポーターがするなど工夫するといい。
- 田中委員 自分もサークルに入ったが、連絡を取り合うにも個人情報の利用に対して気にしなければいけない。仲間づくりの気持ちがしぼむ。
- 黒田委員 それは仕方ないだろう。講座を介してできたグループの場合、テーマに関心があるという人もいると思う。
- 田中委員 サークルがたくさんあると思うが、そのサークルの連絡会に力を入れてはどうか。連絡会をきっかけとして、もっと居心地のよいサークルを見つけることもできるのではないか。
- 塩見委員 以前は、講座の先生の魅力を通じてサークルができていたので、世代の違いを感じた。難しいこともあるかもしれないが、講座に集まった人たちに声掛けだけははしておいた方がよいのではないか。だれかがきっかけをつくるのが大切だと思う。
- 黒田委員 サークル連絡会の名簿は1日体験フェアの会場では閲覧できるのか。
- 塩見委員 閲覧することができる。活動内容についても閲覧できる。
- 山崎委員 社会教育団体の名簿は地域アカデミーなどでも閲覧することができる。興味のある方はその名簿をみてサークルに入ることもあるだろう。
- 山崎委員 ホームページでも公開している。
- 田中委員 サークル同士のつながりは少なくなっているように思う。

- 塩見委員 ボランティア意識が乏しくなっているように思う。仕事が忙しすぎるのかもしれない。
- 山崎委員 自分が学ぶだけではなく、地域活動に展開するような学び方が大切だという田中会長の意見なのだろう。
- 塩見委員 サークルの情報をテーマ別に分けて情報提供をすると、興味のある方に届きやすくなるのではないかな。
- 山崎委員 一方で、外から会員を入れたいと思っているサークルがどれほどあるのか。
- 黒田委員 新しいメンバーをどのように募るのが課題だろう。生涯学習に参加していない区民が関心を持って、参加しようと思ってもらえるようにするには敷居が高い。その方策を考えないといけない。
- 田中委員 1日体験フェアはよい機会だと思う。通りがかった方がチラシを持っていくこともある。
- 小林委員 みなさん、まさに生涯学習をやっていると感じた。自分のグループは、集まるたびにテーマを決めて、学ぶことを決めている。先生が中心になっているわけではなく、仲間で集まっている。それも生涯学習だとは思う。  
課題として支援者の裾野を広げることが挙げられているが、自分のグループは支援者が一人しかいない。メンバーが多いと支援が行き届かないので、たしかに人を増やすことは大事だと思う。
- 黒田委員 アンケートでは受講したい講座では「健康・医療・食育」が多く求められているが、講座としては少ないのではないかな。そもそも生涯学習の領域に入れるのかが気になる。保健所や福祉の領域のように思う。
- 田中委員 何でも生涯学習で取り扱えるわけではないだろう。  
サークル連絡会の出席率はよいと聞くので、それが広がるとよいのではないかな。
- 塩見委員 サークル連絡会での連携はとれていると思う。サークル連絡会を広げていくと、たとえば男女共同参画センターのサークルと連絡をとるなど、違う組織との連携もできるのではないかなと思う。  
講座の回数が短すぎるのではないかな。以前は長い期間の講座があったが、いまは4回程度なので学びが深まらない。
- 山崎委員 アカデミー文京の施設を講座で使いすぎると、グループが使えないというジレンマがある。
- 黒田委員 自分が参加することを考えると、長いあいだ、じっくりと取り組める講座があるとよい。短期間の講座は深まらない気がする。  
平日は時間がないので、講座の内容にかかわらず参加しにくいという個人的な事情もある。
- 田中委員 土日祝日に講座を開催しても参加者はそれほど多くない。

#### 【全員での話し合い】

事務局より配布資料「生涯学習分野における課題」の説明が行われた。

- 田中会長 現行計画とこの分科会の議論との関係を確認してみる。サークルを活性化

してネットワークを作りコミュニティ形成につなげるという議論は、現行計画の分野別目標「3 区民・団体の主体的な活動の支援」に相当する。区民自ら学び、主体的な取組みの中で人材も育成される状況を支援していく必要があるという点はこの分科会で議論が集中したところである。

また、文京区役所の各部局やNPOや企業が提供している地域課題の学習の機会をもっと区民に周知していくことで文京区全体の学習の場をつなぐことができるという議論があった。これは、情報の整理・提供という点で現行計画の分野別目標「2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実」に相当する。

現行計画の分野別目標「1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」については、生涯学習の機会が少ない子育て世代や障害者が学習しやすい環境づくりという点で基本的な方向「(3)だれでもが学習・活動しやすい仕組みづくり」が関係してくる。さらに、前回の分科会から議論されている「アカデミー推進課単独では生涯学習の推進に限界があるが、区内の大学・企業等と連携しネットワークしていく」という議論は「(1)多様な講座や学習機会の提供・充実」に相当する。

先程のグループごとに議論の発展的な内容でもよいし、現行計画に加える新たな視点でもよいので、全体でフリーにディスカッションしたい。

三谷委員 様々な講座があるのはよいことだが、全て同じ比重で支援していくことは現実的に厳しいのではないかと。全体的な支援、広報のみの支援など、メリハリつけてはどうか。例えば健康づくりなど庁内の他の部局の講座は、人員の配置まではせず紹介・広報にとどめてもよいかもしれない。

田中会長 当時の文部省が生涯学習を推進し始めた時の最初の課題が、そのような区全体での様々な取組みを一元化していくことだった。

柳澤委員 現行計画の分野別目標を3つ立てているが、最も重要なのは「3 区民・団体の主体的な活動の支援」ではないか。「1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」は前提条件で、「2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実」はサークル活動の情報提供という点で課題になっていると感じている。しかし最終的には3番目が結論になることだと感じている。

事務局 区報は1年に1団体は1回しか載せることができない。自治体によっては生涯学習専用のホームページを作成しているが、文京区では情報が乱立して活用しきれないという議論があった。

田中会長 コストをかけずにできるとよい。しかし、重要なのは講座の情報提供だけでなく、サークルなど、区民自身が取り組んでいることを周知していくことである。

柳澤委員 情報が多すぎると区民は見ない。

黒田委員 図書館の司書のように、学びたい区民に講座などを紹介してくれる人がいるとよいと思う。図書館でそこまでできるか。

田中会長 生涯学習情報センターに相談員を配置している自治体もある。文京区にはあるのか。

事務局 現在、ある程度の相談は受けられるようになっているが、情報センターの設置はできていない。図書館でもまだそこまで対応できる体制はできていない。

黒木委員 区の広報課でまとめることはできないのか。生涯学習には、子育ての内容なども含まれている。

事務局 アカデミー推進課でまとめたいと考えている。

塩見委員 一日体験フェアもだいぶ区民に浸透してきたと感じているが、日にちを延ばすことができないのか。期間が短くもったいないと感じる。

事務局 土日にしか参加できない団体もあるため、期間の延ばすといった意見もあった。しかし、二日間も運営委員が大変だという意見もあった。

塩見委員 チラシ作成など、各サークルが主体的に取り組んでいる。それが1日で終わってしまうのはもったいないと感じている。

松井委員 運営も実行委員会形式で区民の方の自主性でうまくいっている。団体の数が増えると展示スペースの確保の問題が出てくることや、2日続くと負担が大きいという団体の声も実際ある。うまく機能しているこの取組みをさらに充実させていくにはできることをひとつずつ取り組んでいけるとよいと感じている。

田中委員 アンケートで「やりたいのにできない」と回答していた人はどのように情報を収集しているのかということ把握できるとよいのではないかと。今後の新しい広報の方向性を検討するために必要だと感じている。

田中会長 現行計画の分野別目標「2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実」に関わる課題である。

松井委員 「やりたいのにできない」人は仕事や子育て、子どもであれば受験など様々な状況があると思う。そういう人がいる中で「だれでも」という視点でどこまで生涯学習を推進できるのかをさらに議論していけるとよい。

柳澤委員 「やりたいのにできない」人は全体の1割ほどだった。2割を超えると問題かもしれないが、1割のうち「絶対やらない」人もいる。より生涯学習を推進するには、ほかの議論と優先順位をつけておいてもよいかもしれない。

田中会長 「条件さえ整えば生涯学習に取り組む」という層が、どのような条件が整えばよいのかということを考えたい。子育て中、介護中など状況を整理してうまくサポートする方法を考えられるとよい。

事務局 文京eラーニングは、皆さんはどのように捉えているか。

三谷委員 情報が常に発信されていれば、思い立った時に手を出しやすいものだと思う。また、講座について、長期間の講座だと継続して出られない人もいると思う。単発の講座を設定して「条件さえ整えば生涯学習に取り組む」という層にアプローチしていけるとよいのではないかと。

小林委員 個人的に生涯学習に十分に組み合っていないが、色々な講座があるなどあらためて感じている。やる気はあるが、ほかの事に追われていて後回しになってしまっている点は残念に思っている。

黒木委員 文京eラーニングは文京区という枠を超えて発信していくことが大事ではないか。

田中会長            なかなか家を出られない人にはメリットがあると思う。「壁のない大学」といった届ける学習という視点もこれまでも課題だと言われている。うまく発信していけるとよい。

黒田委員            これまでと少し異なる話題だが、計画の副題の変更について意見したい。現行計画に「文の京」とあるが、いわゆる文系のイメージがあり、スポーツや理系の視点がないのではとよく耳にする。別の案を考えてはどうか。

事務局              「文の京」はひとつ前の基本構想に出てきた副題である。

黒田委員            「区内丸ごとキャンパスに」という副題なので、「文の京」は文系に絞ってしまう印象があり、もったいないと感じている。

#### 4. 閉 会

以上